

佐藤真也くん、石井一成くんが オール栃木で初優勝

県内中学校から野球で選抜された佐藤真也くん（小川中）と石井一成くん（同）。その所属するオール栃木が10月11、12日の両日、さいたま市営大宮球場で行われた16チームが参加するNPB第2回関東・東北少年野球大会で初優勝しました。

試合は初日の準々決勝で対戦した埼玉北クラブ（埼玉県）を延長8回特別ルールの末、佐藤真也くんが放ったサヨナラ打で振り切ると、そのまま逃げ切り、決勝の北陵クラブ（岩手県）を8対3で下して、栄冠を手に入れました。

2人は「優勝できてうれしいが、これでチームメイトとはお別れかと思うと寂しい」と話していました。

結果は次のとおりです。

1 回戦 8対0 大森ホワイトスネークスA（東京都）
準々決勝 5対4 埼玉北クラブ（埼玉県）
準決勝 4対0 オール群馬クラブ（群馬県）

決勝 8対3 北陵クラブ（岩手県）



前列 左から3人目が石井くん
後列 左から4人目が佐藤くん



優勝の報告に訪れた2人



農作業や日常生活をとにもすることにより、町民と外国人との国際交流を深めてもらうと、「ホームステイウィークエンド in 那珂川」が10月10日から2泊3日で開催されました。

10月11日には、福島泰夫さん（芳井）の水田で県内在住の外国語指導助手（ALT）や留学生など35人、町内の児童やホストファミリーの方々と総勢130人が参加して春に植えた稲の収穫が行われました。

稲刈り後には、「芳井夢の会」や「舟戸元氣かい」などの地元ボランティアの皆さんの手づくりの料理や、みんなで力を合わせて作った長さ10mを超える海苔巻きに舌鼓を打ちました。



ン・マールツトさん（タイ）が「今回で5回目の参加となりますが、毎回楽しかったので、また参加したいです」とあいさつ。最後に今年取れたお米と江連登美子さん（浄法寺）手作りのまゆ細工のキーホルダーがお土産に配られ、外国人の参加者たちは大喜びでした。



テレビの影響力

9月のある夕方、スーパーでの出来事ですが、バナナのコーナーががら空きに。バナナを食べるダイエット方法がテレビで特集されブームに火がつき、この那珂川町でも品薄現象が起きたようです。以前から本やインターネットで紹介されていましたが、やはりテレビの影響力は大きいですね。

アメリカなどではニュースは新聞やテレビではなく、インターネットから情報を得るのが主流になっているようですが、日本ではまだまだテレビが主流のようです。

テレビの弊害

ところで、栃木県民のテレビの視聴時間が全国で最も長いというのをご存知ですか。

テレビはさまざまな出来事を映像や解説によって分かりやすく伝えてくれる貴重な情報源であり、娯楽を提供してくれる一方で、長時間の視聴は、私たちの生活に弊害もも

たらします。

前回9月号で触れた那珂川町の読書活動アンケート調査で、「最近の子どもたちが本を読んでいる（あまり読んでいないも含む）」と回答した保護者がその要因としてコンピュータゲームに次いで、テレビ（ラジオ、CD）を挙げていました。

だれでもテレビをダラダラと見てしまい、就寝が遅くなったり、やるべき事が後回しという経験があると思います。このように、注意しないとテレビが生活リズムを支配してしまい、時間の使い方が下手で自己管理ができないという結果になりかねません。

テレビの接し方

特に注意したいのは、幼児期におけるテレビなどの接し方です。接し方を誤ると子どもの生活習慣や親子のコミュニケーションの確立に悪い影響を及ぼすとして、日本小児科学会等では提言を行っていますので、その一部を紹介します。

- ・2歳以下の子どもには、テレビ・ビデオを長時間見せないようにしましょう。
- ・乳幼児にテレビ・ビデオを一人で見せないようにしましょう。
- ・授乳中や食事中は、テレビ・ビデオを見せないようにしましょう。
- ・子ども部屋には、テレビやビデオを置かないようにしましょう。

小さい子どもがいる家庭だけでなく、あらゆる家庭で我が家のテレビとの接し方を振り返り、家庭のルール作りに取り組んでみてはいかがでしょうか。

テレビの良い点を活かしながら、上手に付き合っていきたいものです。



北沢の不法投棄の 解決に向けて (37)

町民の皆さんからの質問にお答えします。

Q 県内に管理型の産業廃棄物最終処分場が必要なのではないでしょうか？

A 栃木県は平成19年の製造品出荷額では全国で12位にあり、当然工場等での生産活動で生じる産業廃棄物の量も上位にあることが推測されます。

しかし、産業廃棄物の中間処理と安定型産業廃棄物の最終処分については、県内での処理の割合が高いものの、管理型産業廃棄物の最終処分については、県内に管理型最終処分場がないため、その全量を県外に依存している状況にあります。管理型の最終処分場がない県は、栃木県を含み、山梨県、和歌山県の3県のみです。

全国的に見て他の地域からの廃棄物の流入を抑制する動きが強くなっている中、県内から排出される廃棄物は、できるだけ県内で処理することが求められています。他県に

依存している状況を早急解決するためにも、適正な処理施設を確保することが県の最重要課題の1つとなっています。これは一般廃棄物も同じであり、市町村で排出された一般廃棄物も地域内処理が原則となっています。

現在、全ての廃棄物について排出の抑制や再使用や再資源化が全国的に行われていますが、現時点では廃棄物をゼロにすることは不可能であり、毎日排出される廃棄物を適正に処分することが社会的課題となっています。そのため、廃棄物最終処分場は必要な施設となっています。

